

## Author Instructions for the Journal of Health Professional Education

保健衛生教育学会 学術誌編集部 ・ 保健衛生教育学会誌 編集委員会

## 1 投稿原稿作成前の注意事項

- 投稿原稿を作成する前に投稿規定を必ず確認し、本執筆要領を熟読し、投稿原稿のテンプレートに記載されている注意事項に従って執筆すること。

## 2 投稿等のあて先と必要な書類（電子ファイル）

- 論文の投稿や、学会誌に関する問い合わせは、下記の電子メールアドレスへ送信する。

|                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------|
| 論文投稿・連絡先：保健衛生教育学会誌 編集委員会 <a href="mailto:journal@jshpe.jp">journal@jshpe.jp</a> |
|---------------------------------------------------------------------------------|

- 論文投稿では、以下のファイルを電子メールに添付する。
 

|           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| [1] 論文原稿  | [2] 画像ファイル                    |
| [3] 投稿承諾書 | [4] 英文校正証明書（要旨等で英語の文章がある場合のみ） |
- 査読後の再投稿では以下のファイルを添付する。
 

|                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| [1] 修正原稿       | [2] 修正不要の画像を含む全画像ファイル       |
| [3] 査読コメントへの返信 | [4] 投稿承諾書（著者や題目に変更があった場合のみ） |

## 3 連絡著者（責任著者，Corresponding Author）とカバーレター（添え状）

- 投稿手続き（電子メールの送受信）は連絡著者（責任著者）が行わなければならない。
- 投稿時のカバーレターは電子メールの本文に記載する。
- カバーレターは、慣例に従い下記の内容を編集委員長あてに記述することが望ましい。
 

|                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| [1] 論文題目と希望する論文の区分   | [2] 研究の概要（または修正の概要）       |
| [3] 他誌に投稿していないこと     | [4] 全著者が論文に貢献し投稿を承認していること |
| [5] 連絡著者の氏名、所属、連絡先情報 |                           |

## 4 論文原稿の基本設定と文字・文章の表記法

## 4.1 投稿原稿のひな型（テンプレート）

- 本学会が提供する Microsoft Word のひな型を使用する（URL：<https://jshpe.jp/journal/>）。

## 4.2 敬体と常体

- 「提言」は敬体でも常体でもよく、それ以外は「である調」とする。

## 4.3 文章の区切りと段落の区切り

- 日本語文章の区切りの符号：句読点ではなく全角のカンマ・ピリオドを用いる。
- インデント：段落開始は1文字の字下げを行う。
- 段落と段落の間：1行空ける。

## 4.4 本文の文字フォントの大きさと種類

- 文字サイズ：12 ポイント
- 日本語のフォント：MS 明朝
- 英語のフォント：Times New Roman
- 記号：半角英数文字を用い、英語フォントと同じく Times New Roman とする。
- 例外の記号：日本語文章の括弧は全角の（ ）を使用し、英語では半角の（ ）を使用する。

## 4.5 文字の装飾

- 修正稿の修正箇所を示すときを除き、黒色の文字を使用する。
- 特定のケースを除き、アンダーライン、網掛け、太字、斜体は用いてはならない。

## 4.6 数値と単位の表記

- 数値はアラビア数字で記述し、数字を3桁ごとにカンマで区切る。

- 単位のある数量では単位を明記しなければならない。
- 国際単位系（International System of Units, SI）に準拠した単位を使用する。

#### 4.7 略語

- 原則として一般的な単語のみ略語を使用する。
- 本文中で初めて出現した際に（要旨で既出であっても）スペルアウトする。
- 図表では本文で既出でもフルスペルを加筆する。

### 5 論文原稿

#### 5.1 タイトルページ（全2ページで下記(1)～(8)を順に記載する）

- タイトルページでは10.5ポイントの文字サイズで記入する。

##### (1) 論文の区分（Type of Manuscript）

- テンプレートの「論文の区分をリストから選択する」から希望の区分を選択する。



##### (2) 論文題目と副題（Title and Subtitle）

- 主張が不明瞭になる「〇〇について」という題目は極力避け、本文の内容を適切に表現する。
- 副題がある場合には、日本語では題目と副題をハイフン「-」で繋ぐ（副題の後ろには付けない）。
- 英語の題目と副題の間は、半角コロン（+半角スペース）「:」で繋ぐ。
- 題目と副題との間も含め、途中で改行しない。
- 英語の題目は Sentence Case で記載する。

##### (3) 著者名（Author Name）

- 日本語欄では姓・名の順、英語欄では名・姓の順で表記し、姓と名を半角スペースで区切る。
- 日本語欄でも、原語が日本語でない著者名の場合には原語のまま記載する（姓・名の順）。
- 英語では姓（Family Name）をすべて大文字とし、ミドルネームはイニシャルとする。
- 著者名の後ろに所属組織名の番号を上付き文字で記入する。
- 複数の組織に所属する場合は、半角カンマ（半角スペースを用いない）で区切る。
- 連絡著者には、所属番号の後ろに \* を付与する（カンマ等で区切らない）。

##### (4) 所属組織名（Affiliation）

- 所属番号ごとに組織名を日本語と英語で記載する。
- 組織名は、原則として所属する学科や部署まで明記する。
- 日本語では、学科名などの区切りに半角スペースを用いる。
- 英語では半角カンマ（+半角スペース）で区切る。

##### (5) 連絡著者（責任著者，Corresponding Author）

- 本情報は論文に記載され公開される。
- 連絡著者氏名，メールアドレス，所属組織名，住所（郵便番号を含む）を記載する。

##### (6) 要旨（Abstract）

- 「提言」・「解説」では要旨を記述しない。
- 要旨は日本語で300文字以内，英語で150 words 以内で記述する。
- 「原著」・「短報」では、背景，目的，方法，結果，結論の順で記述する。
- 「原著」・「短報」・「総説」では、目的からではなく背景に関わる文章から執筆する。
- 要旨は非構造化アブストラクトで作成する。すなわち、背景，目的，方法，などの小見出し付きのセクションで分割せず，途中で改行せず，ひとつの段落として作成する。

## (7) キーワード (Keywords)

- ・本文の内容を適切に示唆する単語または2～4語で構成されるフレーズを、3～5個記載する。
- ・キーワードの区切りには半角セミコロン＋半角スペースとする。

## (8) 利益相反 (COI, Conflict of Interest)

- ・COIが無い場合も含め、日本語および英語で明記する必要がある。
- ・研究助成は基本的には謝辞に記載するが、利益相反に関わる場合はCOIにも記述する。
- ・下記の記載例を参考に記述すること。

## 【利益相反がある場合の記載例】

- ・本研究に関する費用は[企業名・団体名]が（一部を）負担した。  
This study was funded by [企業名・団体名].  
This study was partially funded by [企業名・団体名].
- ・第○著者は[企業名・団体名]より報酬を受領している / に雇用されている。  
The ○th author received honorarium from [企業名・団体名].  
The ○th and ○th authors are employees of [企業名・団体名].
- ・第○著者は保健衛生教育学会誌の編集委員である。  
The ○th author is a member of the board of directors of the Japan Society for Health Professional Education.

## 【利益相反がない場合】

- ・本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。  
The authors have no conflicts of interest directly relevant to the content of this article.

## 5.2 本文（緒言～謝辞）

## 5.2.1 節の名称

- ・原則として、「原著」・「短報」は1 緒言, 2 対象と方法, 3 結果, 4 考察, 謝辞で構成する。
- ・必要に応じて「5 結論」の節を設けてもよい。
- ・「報告」・「総説」・「解説」では、1 緒言 以降の節の名称は自由に作成してよい。
- ・「提言」では節の名称を規定しない。

## 5.2.2 階層的番号付け

- ・各節をさらに分ける際には、「2.1 対象」、「2.2 調査方法」、「2.3 統計学的検討」、などとする。
- ・さらに「2.1.1 健康成人」、「2.1.2 患者」のように階層を分けてもよい。

## 5.2.3 謝辞

- ・「謝辞」には見出し番号を振らない。
- ・著者資格を有しないが研究に協力した個人の氏名と協力内容を記述する。
- ・研究助成を受けた場合にはその助成金番号やプロジェクト名などを記載する。

## 5.3 引用文献

## 5.3.1 本文中での引用方法

- ・すべての引用文献は、論文中の本文または図表で引用されなければならない。
- ・引用文献は出現した順番に番号を振り、[3] のように半角の角括弧で表現する（上付きにしない）。
- ・複数の文献を引用する場合、以下の例のように表示させる。
  - ・田辺ら（2015）は、Xについて、「○○○○○○」と述べている [6].
  - ・近年の報告によると、Yの影響が非常に強いことが示されている [4,5,8].
  - ・Zに関する要素についても、これまでに多くの先行研究で議論されている [1,8-10,21].

## 5.3.2 引用文献リストの全体ルール

- ・アクセプトが確定していない投稿中の論文を引用してはならない。
- ・引用できるのは、学術論文、本、Web ページのみとし、修士論文など学位論文は引用しない。
- ・本文中に出現した順番で1 から順に箇条書きで記載する。
- ・日本語、英語を問わず、カンマ、ピリオド、コロン、カッコなどは半角英数文字で記載する（英語の基本ルールに従い、カンマ等の後ろには半角スペースも必須）。

- 著者が日本語名の場合、「藤田太郎」のように姓と名をスペースなどで区切らない。
- 著者が英語名の場合、「Fujita T」のように姓、名の順で記述し、姓以外をイニシャルで表記する。
- 著者名にミドルネームがある場合、例えば、Jean（名） Pierre（ミドルネーム） Polnareff（姓）の場合、Polnareff JP とする（イニシャルの間に半角スペースを入れない）。
- 著者の区切りはすべてカンマ+半角スペースとする（「and」を使用しない）。
- 著者が4名以上の論文では、筆頭著者から順に3名のみを記載し、それ以降を日本語では「他」、英語では「et al.」とする。

### 5.3.3 引用文献の記載方法 – 論文

- 論文を引用する時には、「著者. 論文題目. 論文誌名 巻(号), ページ, 発行年」, 「Authors. Title. Journal Name Vol(issue), pages, year.」の形式で記載する。
- 英語の論文題目は原則として **Sentence Case** で記載する (5.1(2)を参照)。
- 論文誌名は、日本語も英語も省略形を使用しない。
- オープンアクセス誌の掲載論文などページではなく論文番号で管理されている論文では、ページの代わりに論文番号を記載する。
- DOI や PMID などデータベースで論文に振られた固有番号は記載しない。

### 5.3.4 引用文献の記載方法 – 本

- 本を引用する場合、「著者. 本のタイトル 版数, 章のタイトル. 出版社名. P. ページ番号, 発行年」, 「Authors. Title Edition, Chapter. Publisher. P. pages, year.」の形式で記載する。
- 監修者や編集者、翻訳者がいる場合、「監修者名 (監), 編集者 (編), 翻訳者 (訳). 本のタイトル 版数, 章のタイトル (著者). 出版社名. P. ページ番号, 第1刷発行年」, 「Editors. Title Edition, Chapter (Authors), Publisher. P. pages, year.」の形式で記載する。
- 英語では監修者と編集者を区別せず、「Tanabe S, Uehara S, eds.」のように記載する（1名の場合は「Tanabe S, ed.」）。
- 1冊すべてを引用してはならず、必ず該当する章や節を記載する。
- 版数によって内容・ページが違うこともあるため、第2版以降は版数を記載する。
- ISSN や ISBN などの識別コードは記載しない。

### 5.3.5 引用文献の記載方法 – Web ページ

- Web サイトから引用する場合、「Title, URL, [〇年〇月〇日閲覧].」の形式で記載する。
- サイト名 (Title) が無い場合には省略しても構わない。
- URL が変更・削除されることがあるため、多くを引用しないことが推奨される。
- Wikipedia を含め不特定多数が自由に編集できるサイトや、個人のブログなどは引用しない。

### 5.3.6 引用文献の記載例

論文 (日本語, 著者が1名, 巻・号あり)

- [1] 武田湖太郎. 痙縮の評価法: 徒手の手法と生体工学的手法. バイオメカニズム学会誌 42(4), 211-218, 2018.

論文 (英語, 著者が3名以内, 巻あり・号なし)

- [2] Takeda K, Tanino G, Miyasaka H. Review of devices used in neuromuscular electrical stimulation for stroke rehabilitation. Medical Devices 10, 207-213, 2017.

論文 (英語, 著者が4名以上, 巻・号あり, ページではなく論文番号)

- [3] Yuasa A, Uehara S, Sawada Y, et al. Systematic determination of muscle groups and optimal stimulation intensity for simultaneous TMS mapping of multiple muscles in the upper limb. Physiological Reports 10(23), e15527, 2022.

論文 (日本語, 著者が4名以上, 巻・号あり)

- [4] 長岡佑馬, 北俣康介, 矢代大祐, 他. 時変弾性係数を用いた他動底背屈時の足関節トルクの推定. 電気学会論文誌 D (産業応用部門誌) 142(3), 232-240, 2022.

本（日本語，著者 3 名以内，章の著者なし，初版）

- [5] 大久保街亜，岡田謙介．伝えるための心理統計 効果量・信頼区間・検定力，4.5 回帰分析の信頼区間．勁草書房．P. 139-144, 2012.

本（英語，編集者 4 名以上，章の著者なし，第 5 版）

- [6] Purves D, Augustine GJ, Augustine G. J, et al., eds. Neuroscience 5th edition, Chapter 13 The auditory system. Sinauer Associates, Inc. P. 277-302, 2012.

本（日本語，監修者・編集者あわせて 3 名以内，章の著者 3 名以内，初版）

- [7] 西条寿夫（監），伊佐正（編），浦川将（編）．リハビリテーションのためのニューロサイエンス，2 章 3 手指の機能回復を可能にする神経回路の解明（當山峰道，伊佐正）．メジカルビュー社．P. 137-150, 2015.

本（日本語，編集者 4 名以上，章の著者なし，初版）

- [8] 千野直一（編），椿原彰夫（編），園田茂（編），他．脳卒中の機能評価－SIAS と FIM [基礎編]，2-2 SIAS の具体的評価方法．金原出版．P. 44-67, 2012.

本（英語，編集者 4 名以上，章の著者 4 名以上，初版）

- [9] Tanioka T, Yasuhara Y, Osaka K, et al., eds. Nursing robots, Chapter II Necessary robotic features to support the physical activities and rehabilitation of the elderly (Yamazaki K, Sugawara K, Koyama S, et al.). Fukuro Shuppan. P. 19-34, 2017.

本（翻訳書籍，編集者・翻訳者合わせて 4 名以上，章の著者なし，初版）

- [10] Grafen A（編），Hails R（編），野間口謙太郎（訳），他．一般線形モデルによる生物化学のための現代統計学，第 13 章 カテゴリカル型データ．共立出版．P. 245-268, 2007.

本（翻訳書籍，著者 2 名，翻訳者 1 名，章の著者なし，第 2 版）

- [11] Sethi RK, Thompson LL, 白井康正（訳）．ベッドサイドの筋電図ハンドブック 第 2 版，18. 筋電図検査．メディカル・サイエンス・インターナショナル．P. 123-150, 1990.

本（日本語，著者が組織名，章の著者なし，初版）

- [12] 首都大学東京体力標準値研究会（編）．新・日本人の体力標準値 II, III 95 脈拍数．不味堂出版．P. 389-392, 2007.

Web ページ（タイトルあり）

- [13] 科学研究費助成事業（科研費），<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/>, [2024 年 9 月 9 日閲覧].

#### 5.4 表

- 最終的な掲載時の大きさを想定した大きさの表を作成し，文字サイズなどを調整する．
- 本文での出現順に表 1，表 2 の番号を振り，表がひとつの場合でも「表 1」と番号を付ける．
- 画像化せず，編集可能な表を Word ファイル内で作成する．
- 色つきのセル，縦罫線は原則として用いない．横罫線も必要最低限（表のタイトルの下部，見出しの下部，および表の最下部など）に留める必要がある．
- 表のタイトルは，「表 1. ○○と△△の関係．」のように，表の最上部に記載する．
- 表の数値に単位がある場合には，表の見出しに単位を明記する．
- 表の説明文（略語や記号の説明）は，表の最下部の横罫線のさらに下に記載する．

#### 5.5 図と図の説明文

- 本文での出現順に図 1，図 2 の番号を振り，図がひとつの場合でも「図 1」と番号を付ける．
- 図中に複数のグラフを並べる際は，各グラフの左肩に「a」「b」などと記載し，それぞれについて「(a) ○○の平均値．(b) △△の時間変化．」というように説明を記述する．
- グラフを用いる場合，軸の名前と（単位のある数量では）単位を明記する必要がある．また，印刷後の大きさを想定して軸の数値や名前の文字サイズ，グラフの線の太さを調整する．

- 写真を使用する場合、人物には目線を入れるなど肖像権やプライバシーに配慮する。
- 原稿に記述する説明文は、「図 1. タイトル. 説明文章. 略語とそのスペルアウト、有意差の記号の説明など。」のように、図の番号とタイトル、読み取り方、略語や記号の説明を記述する。これらは途中で改行しない。
- 図や説明文で使用する略語は、本文中でスペルアウトしていたとしても、改めてフルスペルを説明文中に記載する。
- 図の画像データは、画像ファイルとして原稿ファイルとは別に提出する（6.を参照）。

## 5.6 著作権 (copyright)

- 論文原稿では以下の青文字部分を筆頭著者の氏名に変更して提出する。氏名は姓をすべて大文字で記載し、単著の場合は et al を削除する（単著の場合は「© 2025 Haruko HOKEN.」となる）。

© 2025 Haruko HOKEN et al. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License (CC BY). The use, distribution or reproduction in other forums is permitted, provided the original author(s) and the copyright owner(s) are credited and that the original publication in this journal is cited, in accordance with accepted academic practice. No use, distribution or reproduction is permitted which does not comply with these terms.

## 6 画像ファイル

- 画像ファイルは1画像ごとに1つのファイルとして提出する。
- ファイル名をそれぞれ「図 1」、「図 2」のように論文中で表示される名前とする。
- 画像のファイル形式は TIFF, EPS の形式を原則とするが、JPEG 形式を用いる場合は JPEG ノイズの少ない高解像度のファイルに限る。
- 可能な限り周囲の余白を削除した画像を作成すること。
- 掲載時の図の大きさ（2 段組み文章の 1 段分に相当するか 2 段分の大きい画像か、など）を想定し図中の文字サイズ等を調整すること。

## 7 投稿承諾書

- 本学会が提供する投稿承諾書の様式（URL：<https://jshpe.jp/journal/>）を用い、以下の情報を手書きで記述して投稿すること。

- [1] 投稿する年・月      [2] 筆頭著者の会員番号・所属・氏名（氏名は自著に限る）  
[3] 論文題目              [4] 全共著者の氏名（氏名は自著に限る）

- 全著者が自筆で署名した承諾書 1 枚を PDF 形式で提出し、原本は著者が保管する。
- 題目が大幅に変更された場合、または著者が増減した場合には、再度作成して提出する。

## 8 英文校正証明書

- 専門業者が発行する当該論文の英文校正を受けたことを証明するファイル (PDF など) を提出する。

## 9 修正原稿と査読コメントへの返信

### 9.1 修正原稿

- 査読者のコメントに対応して修正した原稿では、修正部分を赤文字等で表記する。
- Word の「修正履歴」機能を使用してはならない。

### 9.2 査読コメントへの返信

- 著者は修正稿を作成すると同時に、査読者のコメントに対して返信する文章を作成する。
- 返信文章では、査読者ごと、コメントごとに、その内容および返答内容を記述する。
- 著者は査読者のすべての査読コメントに対応しなければならない。